

登場する仏教用語の説明

資料 語句の解説
制作 護国寺 谷泰智

① 摩訶一般若波羅蜜多一心経

(マハープラジュニヤーパーラミターフリダヤストラ)

摩訶・・・マハーの音写。偉大なる、壮大な、非常に勝れた、という意味。

般若・・・プラジュニヤーの音写。又はパンニヤーの音写。悟りの叡智。

波羅蜜多・・・パーラミターの音写。彼岸へいくつく、完全な、の意味。

心経・・・フリダヤストラの意訳。肝要な経、心髄の経、という意味。

② 観自在菩薩

観世音菩薩=観音様と同じ。二つの解釈があり、一つは「自在に観る」菩薩、二つ目は「自らの在るところを観る」菩薩。

③ 五蘊

五つの蒸れてもつれたもの。存在を担っているかのような五つの性質。すなわち存在を把握する五つの性質。(以下リンゴの例えで説明。)

色蘊ーまず、これは「リンゴ」である。と単純に目にすること。形や大きさから見ても、自分の知識の中にあるリンゴそのものであると捉えること。

受蘊ーそのリンゴを見て、自分は感性的にどう思うかということ。綺麗とか大きいとか美味そうとか

⑧ 眼耳鼻舌身意 (六根)

人間に備わった六つの感覚器官。

⑨ 色声香味触法 (六境)

六根によって捉えられる六つの対象。

さらに、それらを捉えるための作用として六識(見・聞・嗅・味・触・知)がある。

⑩ 無明

様々な解釈があるが、平たくいうと字の如く明かりが無いこと。

つまり、暗闇で物事がハッキリ見ることができないように、誤った考え方や、妄念、無知に囚われていること。

または自覚不能で根本的な生存欲。

※(参考)十二因縁・・・無明・行・識・名色・六処・触・受・愛・取・有・生・老死

⑪ 苦集滅道 (四聖諦)

苦諦・・・この世の一切は苦である。

集諦・・・苦は煩惱が集まり縁起することに因る。

滅諦・・・その苦を滅した寂靜の涅槃がある。

道諦・・・その涅槃へいたる為の方法が八正道。

※八正道と六波羅蜜については別紙『例えで説明する因縁』を参考にして下さい。

思うこと。

想蘊ーさてさて、一体これはどこで獲れたリンゴだろう?あのキズは木から落ちてできたものか?それとも運んでいるときについたのかな?とか想いめぐらすこと。

行蘊ーどうも美味そうなリンゴだから食べてみたい、そうだ掴み取って食べよう!、と意志をおこすこと。

識蘊ーとここまできてふとあたりを見ると、他にもバナナやミカンがあつたりして、心の中でまた色々までの働きが起きて、ころころ揺れ動いていること。つまり色~行までが複雑に入り乱れた総称。

④ 度

本来の『渡』が簡易されたもの。インド古来の、困難を克服する(困難という川を渡りきって彼岸に到達する)、というような意味。

⑤ 苦

四苦八苦・・・愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦、生、老、病、死。

⑥ 色

この世での、形あるあらゆる物質。

⑦ 諸法

諸々の理。つまり、この世の全ての存在が引き起こす現象。

⑫ 菩提薩埵 (菩薩)

(ボーディサットヴァ)

悟りを求める人。さらにはその発心を興し、他者を導く人。略して菩薩。

⑬ 罪礙

妨げや、滞り。

⑭ 頭倒夢想

物事を逆さまに見るかのような、誤った見解。

⑮ 阿耨多羅三藐三菩提

アヌッタラサンミヤクサンボーディの音写で、この上なく優れた悟りの叡智という意味。

⑯ 呪

ダーラニー(陀羅尼)、又はマントラ(真言)の事。理性では説明できない靈的な力を持った秘密の呪文。祈りの詞であり、呪いではない。

⑰ 獶諦一羯諦一波羅羯諦一波羅僧羯諦一 菩提婆婆訶

「行こう!行こう!完全に行こう!完全に行く(行った)ものよ!悟りに幸あれ!」

般若心経のクライマックスであるにも関わらず、敢えて漢訳せずサンスクリットの陀羅尼のままにしてあるというのが訳者である玄奘三蔵法師の功績。